

『琉球』を 目撃せよ



首里王府阿波連路次楽御座楽保存会



重要無形文化財「組踊」保持者 宮城茂雄氏

2026.10/4

川崎市 × 那覇市友好都市提携 30 周年／首里城正殿復元完成記念

川崎宿江戸上り行列



鑑賞の手引き

琉球大学附属図書館蔵
『琉球人行列図鑑絵』

日時：2026 年 10 月 4 日（日）10:30～11:00 頃 [観覧自由]

コース：東海道川崎宿（砂子一丁目交差点～東海道かわさき宿交流館前）

一幕の、「動く浮世絵」世界

出演：首里王府阿波連路次楽御座楽保存会 川崎沖縄芸能研究会

特別出演：宮城茂雄（重要無形文化財「組踊」保持者）

仲村渠達也（琉球古典音楽野村流音楽協会師範）

主催：川崎宿江戸上り行列実行委員会

共催：一般財団法人川崎沖縄県人会 川崎沖縄芸能研究会

後援：川崎市 那覇市



川崎宿江戸上り
行列公式サイト

ご支援・ご寄付者 芳名録

本事業の趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。
（敬称略・順不同／2026 年 10 月 1 日現在）

【企業・団体協賛】

川崎沖縄県人会（新年会・暑気払い寄付含む）／東海道かわさき宿交流館／株式会社電工舎／
川崎沖縄芸能研究会／チャリティ寄席（5/30 開催分）／一般財団法人おきつる協会／
有限会社 龍美社／NPO 法人かわさき歴史ガイド協会／川崎信用金庫 本店営業部／
株式会社ホリ／有限会社 チネン環境サービス／合同会社まぶいワークス／
川崎市東田商店街商業協同組合／川崎区文化協会／旭町小学校同窓会／
富士見 1 丁目町内会／株式会社マエハラ／神奈川県民俗芸能保存協会／松田良一舞踊研究所
／一般社団法人 ステージサポート沖縄

【個人協賛】

比嘉 孝／鯨澤 勝彦／新里 幸子／古江 恭雄／笠原 光子／青木 茂夫／三浦 淳／安富 光子
／當間 眞孝／小島 静子／知念 義裕／又吉 静枝／中村 紀美子／日比野 眞由美／坂本 直生
／屋良 朝信／具志 忍／金丸 春一／増島 忠道／カネコミヨコ サトシテツヤ／
オオヤマミナコ／シノダミツ／小野澤 利夫／秋元 真理子／宮國 信勝／下村 京子／
ヒロオカヒロコ／吉田 稔／小島 俊彦／伊野波 盛本／金城 京一／金城 陽一／
中島町内会会長 出川 利夫／比嘉 悦子／匿名希望／中村 福駒／荻堂 吉男／
ガイド協会 大箸 保文／ケンモクエツオ／小島 亜矢／大城 康彦／五ノ坪 すえ子／前田 幸男
／前田 利恵子／仲間 賢／金城 瞳／石川 元信／シミズハルコ ミナトクシバダ／
サトウイズミ／常盤 善子／中村 紀子／リョウアイラン／榎町町内会長／森本 正吉／
友利 充秀／山川 岩敏／前西原 清城／遠藤 英樹／津覇 実則／阿賀 嶺 昇

※紙面の都合上、2026 年 10 月 1 日時点でお振込を確認できた方々を掲載しております。直前にお寄せいただいた皆様のご芳名につきましては、公式 Web サイトにて随時更新・掲載させていただきます。

追加芳名録は
公式サイトへ



令和8（2026）年10月4日 発行

川崎宿江戸上り行列・鑑賞の手引き（非売品）

発行：川崎宿江戸上り行列実行委員会

（演出・制作協力：合同会社まぶいワークス）

後援：川崎市／那覇市

公式サイト：https://kawasaki-edonobori.jp

江戸^{のぼ}上り略伝

——王国の威信をかけた外交儀礼、巡り交わる縁^{えにし}

かつて沖縄は「琉球王国」という日本とは別の国でした。一六〇九年、琉球王国は薩摩藩から軍事侵攻を受け敗北。江戸幕府に従属することになった琉球王国は、国王の代替わりを報じる「謝恩使」や新將軍の就任を祝う「慶賀使」をそれぞれ派遣することを義務付けられます。こうして始まった琉球使節の「江戸上り（琉球史料表記：江戸立）」は、一八五〇年までに十八回を数えました。王国はこの過酷な外交儀礼を自国の逸材に広く見聞させることで、国力の向上に繋げようとしたという見方もあります。

海路を経て東海道を陸路で進む片道半年、二千キロに及ぶ道中。玉城朝薫や程順則、平敷屋朝敏ら若き俊英が研鑽を積む一方、厳冬の寒さや病により道半ばで客死し、故郷へ二度と戻れぬ者もいた命がけの旅路でした。

そして、江戸入りを目前に控えた琉球使節一行にとって、旅じまいの宿が「川崎宿」でした。路次楽が鳴り響く隊列は人々を魅了し、川崎の宿場にも深い足跡を遺しました。

やがて時は巡って縁を結びます。寛永の使節・城間清信の血脈を引く米須清仁氏が一九二四（大正十三）年に川崎へ移住して「川崎沖縄芸能研究会」の礎を築いたのです。また一九二七（昭和二）年に川崎で独自の芸道を興した阿波連本啓氏は帰沖後に息子・本勇氏とともに、国王御幸や江戸上りでも奏でられた幻の路次楽や古式行列を復活させました。命を賭した先達の記憶と川崎に根付いた沖縄芸能の百年。二つの縁が交わるところに、本日の行列が立ち現れます。

趣向の弁

——演出意図と背景

砂子^{ごいじ}（沙）に金、かざして玉、とみる「見立て」

史実の江戸上り（江戸立）行列は、正使・副使をはじめ、御轎^{うちあぐら}や長持など多岐にわたる大列で、限られた調達の中では望むべくもありません。ですが、それでも頂きを仰ぎ見て身丈を延ばそうと、揃えを絞って歩み始めました。

そこからが挑戦の連続でした。残された錦絵等を手がかりに知恵と工夫で手探りの「再現」に挑みました。そして、沖縄の匠と川崎の有志によって、ついに江戸上り時の路次楽装束を形にしたのです。さらに川崎の匠たちは儀仗製作に挑み再現しました。

此度の趣向は、東海道川崎宿を舞台に見立て、首里城正殿復元完成を寿ぎ、将来、南殿・北殿を含めた全容が蘇った暁に訪れるであろう「本格的な江戸上り本隊の到来」を予告する、特命を帯びた先触れの使者（先乗りの儀衛正一行）の時を超えた一幕劇です。

読み上げる書翰は、「川崎宿本陣宛ての先触れの書翰」と設定するなど公的規律も保ちました。路上劇としての「見立てのロマン」ではございますが、命を賭して歩んだ先達の誇りと川崎の受人史に敬意を尽くし、見立て見立てで街道に華を咲かせます。

道中案内

——街道の記憶を呼び覚ます歴史絵巻

川崎市・那覇市友好都市提携三十周年と首里城正殿復元完成を記念し、東海道川崎宿に立ち現れる歴史絵巻。百七十六年ぶりに街道へ響く琉球宮廷音楽「路次楽」と、国の重要無形文化財「組踊」保持者・宮城茂雄氏扮する特命使者「儀衛正」が紡ぐ、時空を超えた道中をご案内します。

■ はじまりの地・砂子（砂子二丁目交差点）

使節団が集うのは、川崎宿はじまりのふた町のひとつ、砂子。冠水を防ぐため盛土が施されたといわれるこの地は、かつて「中の本陣」や「問屋場」が置かれた宿場の要でした。「首里王府阿波連路次楽御座楽保存会」による古式の調べとともに、四百年の記憶を呼び覚ます行進が始まります。

■ 街道の記憶と東海道川崎宿（特命儀衛正合流地点）

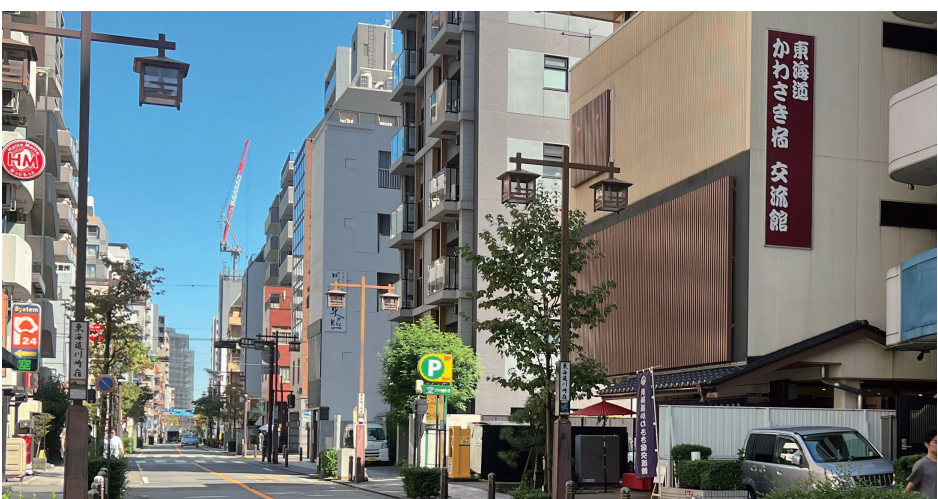
路次楽の調べが東海道に響き渡る中、沿道より先触れの特命使者「儀衛正」が合流します。一行が進む東海道川崎宿は、宿場の歴史保存と浮世絵文化の振興に生涯を捧げた斎藤文夫氏をはじめ、多くの人々が情熱を注ぎ守り継いできた由緒ある宿場です。その記憶を背に、王権の象徴「赤御涼傘」を掲げた儀衛正が隊列の先頭へ加わり、先陣の路次楽隊とともに東海道川崎宿を一幕の「動く浮世絵」へ変える歴史劇が開幕します。

■ 結びの一幕（東海道かわさき宿交流館前）

儀衛正率いる一行が到着するのは「東海道かわさき宿交流館」。
斎藤氏をはじめとする市民有志の熱意ある運動によって誕生した文化と地域交流の拠点です。宿場の歴史と先人の志を受け止め、市民と分かち合う「結びの一幕」がここで繰り広げられます。

■ 終着（東海道川崎宿交差点）

一行は宿場の象徴である「東海道川崎宿」の表示が掲げられた交差点へ到達。
首里から江戸へ連なる街道の記憶を現代に蘇らせた絵巻は、川崎市と那覇市の絆を未来へ手渡す確かな架け橋となつて幕を閉じます。



「詳細ルート・当日案内」
行列の道中マップ公開中
スマホを使ってスポット
周辺を探索できます。
詳しくは以下のサイトで。



路上劇「先触れの使者・儀衛正」筋立て

一、物語の立脚点（なぜ「先触れ」の一団なのか）

首里城正殿復元完成、ならびに川崎市・那覇市友好都市締結三十周年を寿ぐべく、かつて川崎宿始まりの地「砂子」に時を超えて琉球使節の御霊が現出します。

正使・副使を擁する本格的な江戸上り本隊の現出は、近い将来、首里城の南殿・北殿を含めた全容が完全に復元を遂げた際、再建を支えてくださった人々へ満を持して深謝を捧げる「未来のハレの日」へと期しています。

此度は首里城正殿復元完成という大いなる節目を言祝い、いずれ訪れる本隊の到来を予告する「特命を帯びた先触れの使者・儀衛正」としての顕現です。

それゆえ、正使・副使や華美な道具立てを伴わない編成でありながらも、王府の誇りと道中の礼を尽くすに足る、路次楽・儀仗・掌翰使、そして儀衛正という精鋭の陣容で街道へと臨む設定です。

路上劇「先触れの使者・儀衛正」口上（大意）

【第一幕…名乗り（大意）】（琉球語）

国王の命を拝し、東海道川崎宿へ海を渡り参上した旨を高らかに告げる。

【第二幕…口上（大意）】（大和口・候文）

大正の世より川崎へ移り住んだわが同胞を受け入れてくれたことに感謝する。

首里城正殿が復元できたことも皆様のお力添えあったればこそ。

江戸を目指す途上であるが、ここに川崎・那覇友好都市三十周年の節目を寿ぎ、両市の未来の栄えを祈念する。

【第三幕…辞去挨拶（大意）】（琉球語）

お揃いの市民・観衆の幸福を願ひ、堂々の暇乞いを告げて退場する。

二、路上劇の展開（砂子出立から終幕・昇天まで）

■ 出立（砂子二丁目交差点・川崎宿由来の碑）

初披露の「江戸立装束」をまとった路次楽を先頭に、旗や儀仗持ち、国書を携える掌翰使を伴った一行が出立します。

■ 儀衛正の現出と合流（旧東海道沿道）

宿場の記憶が眠る東海道沿道にて、王権を示す「赤御涼傘」を押し立てた儀衛正が姿を現し、隊列先頭へ加わります。

■ 親書中継の儀（公的規律の表現）

掌翰使の従者から儀衛正の従者へと、川崎宿本陣宛ての親書が慎重に手渡されます。

■ 東海道かわさき宿交流館前での口上奏上

本陣に見立てた交流館前で、琉球語を交え、感謝と寿ぎの祈りを一幕劇として堂々と朗読します。

■ 終幕と昇天（東海道川崎宿交差点）

交差点で、使者たちの御霊は役目を終えて静かに昇天し（見立て）、銅鑼の響きとともに行列は去っていきます。

令和版・江戸上り行列 隊列構成

街道を歩む隊列は、史実の儀礼秩序と本絵巻の見立てに基づき、以下の陣容で厳かに進行します。

【行列統括】特命「儀衛正」(宮城茂雄氏) & 従者

※途上より合流。合流後は先頭に立ちます。

役割…「赤御涼傘」を押し立て、行列全体を統括・指揮します。

一、【先頭儀仗】張旗(金鼓旗)

役割…路次楽演奏の始まりを告げる象徴的旗章です。

二、【先導・路次楽】首里王府阿波連路次楽御座楽保存会

装束…初再現「江戸立路次楽装束」

役割…古式豊かな道中楽を街道に響かせます。

三、【先頭儀仗】虎旗(飛虎旗)

役割…武威を誇示し邪気を払う象徴的な魔除けの旗章です。

四、【使節高官】特命「掌翰使」(仲村渠達也氏) & 従者

役割…川崎宿本陣宛ての先触れの親書を携行します。

五、【武具儀仗】月牙斧／龍頭斧

役割…川崎の匠が共同製作した長柄付き儀礼用武具を掲げ、要人の警護を担います。

六、【使節団本隊随行】川崎沖縄芸能研究会

役割…出立時から気概をもって行列を支えます。

【主要用語解説】

◆儀衛正(ぎえいせい)

使節団の運行・警備・儀礼全体を指揮・統括した要職。本絵巻では正殿復元を寿ぎ、正殿に続き南殿北殿復元完成の暁には川崎を訪れるであろう江戸上り行列本隊の先触れの使者としての役割を担います。

◆掌翰使(しょうかんし)

国王の親書を携行し、文書外交を司る要職。程順則ら漢文の素養に秀でた高官が務めました。

◆路次楽(るじがく)

中国(明王朝)から伝来し、琉球国王の行幸や「江戸上り」の行列を華やかに彩った幻の道中楽(宮廷行進曲)です。一度は途絶えたものの、阿波連本啓・本勇氏の親子二代の執念によって現代に蘇りました。独特な管楽器や銅鑼の音色を響かせ、王府の威厳とともに古式豊かな行列を先導します。

【特別出演】特命「儀衛正」



宮城茂雄氏

重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)

琉球舞踊家・組踊立方。宮城流二代目家元に師事、京都で能楽を修める。国立劇場や国立能楽堂での独演会、海外公演多数。本年七月、国の重要無形文化財「組踊」保持者認定。川崎沖縄芸能研究会「組踊研修部」発足時より立方指導講師を務め、川崎で32年ぶりの組踊上演を成功させた。本絵巻では首里城正殿復元と川崎市那覇市友好30年を祝し、江戸上り本隊到来を予告する特命「儀衛正」に扮する。

【特別出演】特命「掌翰使」



仲村渠達也氏

一般社団法人伝統組踊保存会伝承者

国立劇場おきなわを中心に活躍する実力派美演家。琉球古典音楽野村流音楽協会師範。川崎沖縄芸能研究会「組踊研修部」発足時より地方指導を務め、宮城茂雄氏とともに長年にわたり川崎での古典芸能継承に尽力し、川崎で32年ぶりの組踊上演を成功させた。本絵巻では川崎宿本陣への親書を携行する特命「掌翰使」に扮する。

【招聘団体】首里王府阿波連路次楽御座楽保存会



沖縄県選択無形民俗文化財

琉球王国の宮廷音楽「路次楽」「御座楽」の復興・保存・継承団体。王国終焉以降途絶えていた路次楽を、手探りで復活させた阿波連本啓・本勇氏の遺志を継ぐ。本絵巻のために沖縄より来川。初再現となる「江戸立装束」を身にまとい、東海道に古式の調べを響かせる。

【出演団体】川崎沖縄芸能研究会

神奈川県指定・川崎市認定
重要無形民俗文化財



川崎に根付いた沖縄伝統芸能を受け継ぎ、古典芸能の保存・継承に取り組む。本行列では出立時から行進する「使節本隊」と、東海道沿道より合流する「儀衛正附」に分かれて行列を構成。歴史的血脈と気概で、行列全体の威容と運行を支える。

伝統の匠・再現製作陣

——絵画資料を手がかりに挑んだ、幻の装束と道具立ての復元

実物が現存しない装束や道具立てを、残された錦絵などの絵画資料を手がかりに知恵と工夫で形にする。
本絵巻の威容は、沖繩と川崎の匠たちが結集し手探りで挑んだ情熱の結晶です。

一、【初再現】江戸立路次楽装束

製作…糸満和美氏（琉縫工房 絲主宰／組踊道具・衣裳製作者）
国指定重要無形文化財「組踊」の道具・衣裳製作者であり第一人者。最適な代替素材の選定から手縫いまで心血を注ぎ、一八七九年の王国終焉以降途絶えていた「江戸上り時の路次楽装束」の再現に挑戦しました。

二、使節冠（ハチマチ）

製作…金城裕幸氏（組踊道具・衣裳製作修理技術保存会 道具技術者／裕工房 代表者）
道具伝承者…宮城優子氏、金城小百合氏（裕工房）
国選定保存技術「組踊道具・衣裳製作修理」保存技術者率いる恩納村「裕工房」チームが結集。絵画資料に描かれた使節の格調高い姿を再現すべく、旗持ちや武具持ちが戴く伝統の冠「ハチマチ」を手作業で仕立て上げました。

事業運営体制

【主催】川崎宿江戸上り行列実行委員会

【共催】一般財団法人川崎沖繩県人会／川崎沖繩芸能研究会

【後援】川崎市／那覇市

【実行委員会役員】

委員長…金城宏淳（一般財団法人川崎沖繩県人会 会長）

副委員長…名嘉祥史子（川崎沖繩芸能研究会 会長）

比嘉孝（一般財団法人川崎沖繩県人会 名誉会長）

木村教義（川崎駅広域商店街連合会 専務理事）

北沢仁美（東海道かわさき宿交流館 館長）

監事…並里典仁（横浜鶴見沖繩県人会 会長）

【事務局】

濱館幸二（前・東海道かわさき宿交流館副館長）

山川夏子（合同会社まぶいワークス 業務執行社員）

【オブザーバー】

川崎市市民文化局 市民生活部 多文化共生推進課

川崎区役所 まちづくり推進部 地域振興課

【実行委員】

田名真之（元沖繩県立博物館・美術館館長）

田中英機（くらしき作陽大学 客員教授）

三浦淳（認定NPO法人かわさき市民アカデミー 理事長）

三、【初再現】大帯・中芯等

製作…上原じゅん子氏／江洲のぶ子氏

（組踊道具・衣裳製作修理技術保存会 製作技術者）

琉球古典芸能の舞台衣裳製作修理を正統に継承する技術者が担当。路次楽装束および使節団の装いを美しく引き締め、威風堂々たる歩みを支える大帯や帯芯などの重要部材を手仕事で丹念に製作しました。

四、【共同製作】長柄付き儀礼用武具（月牙斧・龍頭斧）

長柄担当…慶田城哲芳氏（沖繩八重山民謡三味線教室「哲研」代表・唄者）
武具造形担当…五味川千鶴氏（前之浜三線工房）

川崎に息づく三線木工技術と職人技の結晶。八重山古典民謡の指導者として長柄の加工を担った慶田城氏と、「かわさきマイスター」の技を継ぐ三線職人の五味川氏が共同し、掌輪使を警護する長柄儀礼武具を巧みに造形しました。

中村茂（公益財団法人川崎市文化財団 理事長）

青木茂夫（一般社団法人川崎市観光協会 専務理事）

中村雅之（明治大学大学院 兼任講師）

喜屋武靖（映画監督／合同会社まぶいワークス 代表）

大野順美（一般社団法人ステージサポート 沖繩代表）

中村紀美子（川崎市総合文化団体連絡会 会長）

鬼塚保（川崎駅広域商店街連合会 会長）

河野宗清（川崎区文化協会 会長）

藤田智恵子（NPO法人かわさき歴史ガイド協会 理事長）

知念義裕（NPO法人かわさき歴史ガイド協会）

中村紀子（NPO法人かわさき歴史ガイド協会）

島田秀雄（東海道かわさき宿交流館 副館長）

鈴木よしえ（フリーアナウンサー）

屋良朝信（文筆業・一般財団法人川崎沖繩県人会 員）

堀浩（川崎沖繩芸能研究会 事務局 長）

【協力（個人）】関洋（琉球三線教師・沖繩歴史研究家）

【協力団体】

一般財団法人川崎沖繩県人会／東海道かわさき宿交流館／川崎沖繩芸能研究会／公益財団法人川崎市文化財団／川崎駅広域商店街連合会／一般社団法人神奈川県観光協会／一般社団法人川崎市観光協会／東海道川崎宿場まつり実行委員会／アジア・太平洋文化交流ネットワーク
沖繩／公益社団法人川崎・砂子の里資料館